

2010年度第4四半期 連結業績 国内機関投資家・アナリスト向けカンファレンスコールQ&A
(要旨)

日 時: 2011年5月20日 17:00~18:00

回答者:ソニーフィナンシャルホールディングス 代表取締役副社長 藤方 弘道

ソニー生命 取 締 役 小泉 光廣

ソニー損保 執行役員 丹羽 淳雄

ソニー銀行 執行役員 鈴木 隆行

※内容については、理解し易いよう部分的に加筆・修正しております。

【Q&A】

Q1.

ソニー生命の MCEV 速報について、金利スワップレートの代わりに国債利回りを用いて試算した場合、2010年3月末保有契約価値が(金利スワップレートを使用した場合に比べて)476億円増加したのは、30~40年物の国債利回りがステープ化した2010年度4Q(3カ月)における増加の影響が大きいのか?

A1. [生保]

おそらくそのとおりだと考えているが、詳細は5月27日に公表するMCEVを踏まえて説明する。

Q2.

ソニー生命の2011年3月末の債券のデュレーションは18.5年とのことだが、ディスクロージャー誌では10年超の債券残高は一括りで開示されている。残存期間が10年超の債券残高について、10~20年、20~30年と、10年刻みの残高を教えてください。

A2. [生保]

保険商品単位で区分しており、(負債サイドの)デュレーションの長い保険商品については、(資産サイドで)30~40年物の債券で運用している。デュレーションの短い保険商品(5年ごと利差配当商品や学資保険など)については、20年物などの債券で運用している。

区分ごとの残高についてはお答えできない。

Q3.

2011年3月末のソニー生命のライフプランナー在籍数は、2010年3月末からは減少しているが、2010年12月末からは増加している。2010年度4Q(3カ月)の採用活動において、何か特殊な要因があったのか?また、ライフプランナー在籍数の減少傾向は2011年度も続くのか?

A3. [生保]

採用活動そのものに変化は無い。ライフプランナーの入社人数については多い月と少ない月があり、例年、1月は入社人数が多いことが要因。

ライフプランナー在籍数が減少傾向にあるという認識は無い。厳選採用を行っているので結果的に在籍数は減少したが、採用活動を積極的に行うスタンスに変更はないので、今後は好転すると考えている。

Q4.

2010年度にソニー生命で計上したキャピタル損益238億円が2011年度は見込めないことから、生命保険事業の2011年度業績予想における連結経常利益は530億円となっている。

2010年度の減益要因である震災による保険金等の支払い、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額の増加、第三分野の一部商品の基礎率変更にともなう責任準備金の追加繰入などは2011

年度には改善するだろうし、逆ざやも減少することを勘案すると、2011年度の連結経常利益はもっと良いのではないかと思うが、何か保守的に見ている要因があるのか？

A4. [生保]

キャピタル損益を除くと、2010年度の連結経常利益は約480億円となる。

2011年度においては、震災による保険金等の支払いや第三分野の一部商品の基礎率変更にもなう責任準備金の追加繰入の影響は小さくなるものの、①(震災以外の)支払保険金はやや増加を見込んでいること、②変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額はそれほど大きく改善しない見込みであること、③新契約の獲得の増加にもなう責任準備金の繰入の増加や、継続率の改善(解約の減少)を見込んでいること、④お客さまに震災関係のご案内を差し上げる費用などによる事業費の若干の増加を見込んでいること、などから、2011年度の連結経常利益を530億円と予想している。

(追加質問: 継続率の改善を減益要因として見込んでいるのはなぜか?)

解約が減少することで、責任準備金の繰入がやや重くなるため。

Q5.

危険準備金について、毎年30億円強を積立ててきたと思うが、法定基準の変更によって、2011年度に積立てる金額はどう変わるか? また、価格変動準備金の積立てについてはどうか?

A5. [生命]

危険準備金は法定基準に従って積立てていく予定なので、2011年度は、前年に比べ10億円ほど増加する見込み。

価格変動準備金はリーマンショック時に一度取り崩しており、2011年度中に旧基準限度額まで積立てる方針であることから、前年に比べ数十億円ほど増加する見込み。

(追加質問: 2012年度からは、価格変動準備金の積立ては減るのか?)

2012年度以降の価格変動準備金の積立てについては改めて検討する。

Q6.

ソニーライフ・エイゴン生命の2011年度の業績予想は? 黒字化はいつか?

A6. [生命]

変額年金保険市場が縮小しているため、急激に販売状況が回復するとは想定しておらず、2011年度も赤字基調が続くと見込んでいる。単年度での黒字化については、確実に申しあげることにはできないが、(営業開始後)10年以内を目標としている。なお、目標は市場や販売の状況を見ながら見直しをしていく。

Q7.

[プレゼンテーション資料](#)9ページにおいて、ソニー生命の2010年度の新契約年換算保険料は、年度累計ベースでは2009年度に比べて増加しているが、四半期ベースでは前年同期の2009年度4Qや直近四半期の2010年度3Qに比べて、2010年度4Qは若干減少している。これは震災による影響なのか、あるいは他に要因があるのか?

A7. [生命]

ソニー生命では、例年、1Qと3Qに(キャンペーンなどの施策により)販売が伸びる傾向にある。従って、同じ年度内で3Qと4Qを比較すると、3Qの方が高い傾向にある。

また、2009年に発売した家族収入保険の優良体・非喫煙者割引特則、がん入院保険の販売好調により2009年度4Qの新契約年換算保険料が高かったことから、それに比べると2010年度4Qは減少している。

Q8.

足もと、2011年4月の新契約年換算保険料の数字があったら教えてほしい。

A8. [生命]

具体的な数字は申しあげられないが、営業ベースの数字では2010年4月を若干下回っている。2010年4月は家族収入保険やがん入院保険の販売が好調だったこと、また、2011年は介護保険・定期保険・生前給付保険の販売が好調であるため(前年度とは)商品構成が違うこと、が影響している。

Q9.

ソニー損保のE.I.損害率について、2010年度3Qまでと比べて、2010年度4Qは悪化している。2010年度上半期に比べ、下半期はE.I.損害率の悪化の度合いは改善する、という話があったと思うが、2010年度4QでE.I.損害率が上昇した要因を教えてください。

A9. [損保]

2010年度上半期は事故件数および事故率(保有契約件数に対する事故件数)の上昇が大きかった。2010年度3Qに入って事故件数および事故率の伸びは収まり、2010年度4Qに入ってから事故率は低下傾向となった。にも関わらず2010年度4QでE.I.損害率が悪化したのは、E.I.損害率の計算に支払備金繰入額が含まれるため。期末の支払備金見直しにおいて、特に人身事故にかかる支払備金の高額積み増しが必要と判断された事案が多く発生したことによる。今回の積み増しは通常のレベルを超えるものだった。

Q10.

[プレゼンテーション資料](#) 30 ページのソニー損保の2011年度業績予想において、「業容の拡大にともなう社内態勢強化により事業費率が上昇」とあるが、これは損害調査費の増加、または保険引受スタッフの増員などによるものか？どのような要因で事業費率が上昇するのか教えてください。

A10. [損保]

事故件数の増加によって2011年度の損害調査費は増加すると予想しているが、損害調査費は損害率の一部として考えており、2011年度の事業費率の見直しには含めていない。

事業費としては、システム基盤の再構築などのインフラ整備関連費用や、社内態勢強化にともなう人員増による費用の増加を見込んでいる。

(追加質問: インフラ整備というのは、新契約獲得のためのシステム投資ということか?)

新契約獲得のためだけでなく、ウェブのシステム全体の再構築を中心としたシステム投資。

Q11.

ソニー損保の2011年度業績予想における経常収益804億円および経常利益26億円から推測すると、E.I.損害率を用いたコンバインド・レシオは約95%になると考えているが、内訳のE.I.損害率と事業費率のガイダンスをいただきたい。

A11. [損保]

お客さまの走行距離の伸びが落ち着いてきたこと、ガソリン価格が比較的高いこと、高速道路のETC割引が中止されることなどにより、2011年度は現在より事故率が上昇するとは考えていない。2011年2月に実施した保険料水準の見直しの効果もあらわれてくるので、2011年度のE.I.損害率は2010年度よりも低下すると考えている。

事業費率は、先ほど申しあげたとおり、2011年度は2010年度から若干上昇すると想定している。

Q12.

ソニー損保において、2010年度4Qでは支払備金見直しによる損害率の上昇があったとのことだが、それ以外に、雪による事故の影響で損害率が上昇した、ということはないか?

また、足もとにおける事故受付の傾向はどうか?

A12. [損保]

2010年度4Qにおける損害率上昇の理由は、期末の支払備金見直しの影響が大きく、雪の影響は特に無い。2010年度4Qの事故率は、直前の四半期に対しても前年同期に対しても低下している。

足もとの2011年4月までの傾向としては、事故率は低下している。

Q13.

ソニー銀行について、預金残高と貸出金残高は伸びているが、自己資本比率は低下している。現時点では十分な自己資本比率だとは思いますが、成長のペースから考えると、今後2～3年で自己資本比率は7～8%まで低下するのではないかと？資本の手当てについてはどのように考えているのか？

A13. [銀行]

住宅ローンなどを中心に成長していくとリスク性資産が増加していき、自己資本比率は低下していく。ソニー銀行としては、自己資本比率は10%程度、Tier1 比率は8%程度を健全性の目安としているので、中期的には資本増強は必要と考えている。なお、ソニー銀行では現時点で Tier2 調達はほとんど無いが、資本増強の検討には Tier2 調達も選択肢に含める。

Q14.

SFH の 2011 年度連結業績予想は、2010 年度にソニー生命で計上したキャピタル損益 238 億円が 2011 年度は見込めないことから減益とのことだが、2012 年度以降は減益予想になる可能性は少ないと考えてよいか？

A14. [SFH]

現状、SFH 連結業績においては生命保険事業が太宗を占めているので、成長過程にある損害保険事業・銀行事業において業績の上下はあるかもしれないが、SFH 連結業績の傾向としては、ソニー生命における保有契約の伸び、新契約の伸びに応じたものになると考えている。

以上